

Heartful Communication Magazine

レインボーウェイ RAINBOW WAY 2023



一般社団法人茨城県トラック協会



レインボーウェイ 2023

CONTENTS

一般社団法人 茨城県トラック協会

P.04 茨城のくらしと産業を支える物流最前線

茨城が本社の大手家電量販店の宅配サービスを担当
大型家電などを2マンで配送し設置まで行う

P.06 働きやすい職場認証で労働環境改善を推進

働きやすい職場認証の契件クリアは会社の改善にもなる
働く人にやさしい企業というイメージ向上にも効果

P.08 安全に取り組むトラック運送業界

フリッカー疲労検査の導入など科学的な手法で安全管理
自己満足やマンネリ化に陥らないためGマークを取得

P.10 環境にやさしいトラック運送業界

石油燃料を使って事業をしているので省エネ運転などに努力
その一環としてグリーン経営の認証も取得

P.12 茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

「大きなトラックに乗りたくて」トラックドライバーに
北海道から九州まで行くこともあります、ツイッターなどで近況発信
竹岡愛里菜(たけおか・えりな)さん
高校新卒で入社して工事関係の仕事からスタート
21歳で大型車とけん引免許を取って現在は特殊な8t車に乗務
植田航平(うえた・こうへい)さん

P.14 社会との共生

つくば市が主催した「LALAら交通安全&防災2022」に参加

P.15 会長からのメッセージ

くらしと経済を支えるトラック運送は
持続可能な業界を目指して努力しています
若いみなさんも私たちと一緒に日本の物流を支えませんか
一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小倉邦義

写真:國王神社(坂東市)



茨城が本社の

大手家電量販店の

宅配サービスを担当

大型家電などを
2マンで配送し設置まで行う

茨城県トラック協会には約1600の事業者が加盟しています。これらの事業者は県内の工場で作られた荷物を国内各地や海外へ、あるいは外国や県外から入ってくる荷物を県内各地に運んだりして、くらしと経済活動を支えています。そのような協会加盟の1社を訪ねました。ひたちなか市にあるこの事業者は土浦営業所もあります。トラック運送事業だけでなく電気工事もします。テレビや冷蔵庫、洗濯機、その他の家電製品を購入者の家まで運び、設置なども行うので電気工事が伴うのです。家電製品は大きいので、トラックには2人で乗務します。これを業界では「2マン配送」と呼んでいます。



保有車両は本社が12台、土浦営業所が5台で、1・5t車から2t車の箱車か幌車といわれる車種です。家電製品を積み込むのは家電量販店の各店舗に併設されている配送センターからで、本社はシーサイドひたちなか配達センターと石岡配達センター、土浦営業所がひたち野うしく配達センターから、夕方に翌日配達する製品を積み込んでそれぞれの事業所に帰ります。翌日の朝から配送し、夕方にはまた配達センターから積んで帰るというバターンです。配送先は1コース8件から12件です。

配送する地域は基本的に取引先の各店舗の商圈になりますが、矢祭町や塙町など一部は福島県にも及びます。基本は2マンで配達し、納品先では設置なども行います。店頭で販売した時点での配達のHにちと午前か午後かは決まりますが、配達当日の朝に在宅を確認します。中には時間指定の納品先もあると言います。

茨 城県には様々な企業がありますが、県内に本社のある大手家電量販店もその一つです。この家電量販店は東京証券取引所に上場していて、全国に540店舗を持つています。ひたちなか市の運送会社は、この大手家電量販店が販売した家電製品を購入者の自宅に配達する業務を行っています。

取引先の家電量販店は全国各地に店舗がありますから、それぞれの地域でたくさんの運送事業者に宅配を委託しています。そのうちこの事業者はシーサイドひたちなか店、石岡店、ひたち野うしく店のエリアの宅配を担当しています。

働きやすい職場認証で
労働環境改善を推進

働きやすい職場認証の
要件クリアは
会社の改善にもなる
働く人にやさしい企業という
イメージ向上にも効果



働きやすい職場認証制度は、自動車運送事業（トラック・バス・タクシー事業）のドライバーへの就職を促進するため、事業者の職場環境改善の取り組みを見える化する認証制度です。国土交通省が2020年8月に創設し、認証実施機関の指定を受けた日本海事協会が審査、認証を行っています。①法令順守等、②労働時間・休日、③心身の健康、④安心・安定、⑤多様な人材の確保・育成について要件を満たせば認証を取得できます。認証には一つ星と二つ星があります。



ひたちなか市にあるこの事業者は、機械部品や工業原料などです。その多くは輸入品で、地元の常陸那珂港（茨城港常陸那珂港区）や日立港（茨城港日立港区）に海外から船で運ばれてきます。コンテナで運ばれてきた荷物は通関を経て、コンテナから荷物を取り出します。この作業



認証を取ろうとしたキッカケは、機械部品の輸送先である大手の建設機械メーカーが毎年開催する安全セミナーに参加した時、講師から働きやすい職場認証ができるので取得した方が良い、という話を聞いたからでした。

この事業者は以前から働きやすい職場になるように努力してきましたが、第三者が認証する制度なら要件をクリアする過程も会社の改善につながると考えました。

また、企業イメージの向上にもなります。



をデバーニングと言います。反対に、コンテナに荷物を積み込む作業をバシニングと言います。この事業者はデバーニングした荷物を積んで、北は仙台や南は横浜などに運んでいます。そのような中で2020年に働きやすい職場認証の一つ星を取得しました。今度は二つ星を申請する予定です。



*「フリッカー値」は高頻度に点滅する光がちらついて見える限界の頻度値で、これを活用したのがフリッカー疲労検査法です。

フリッカー疲労検査*の導入など 科学的な手法で安全管理 自己満足やマンネリ化に 陥らないためGマークを取得



鹿

島市にあるこの事業者は大型トラックを主体に51台の車両を持っています。仕事の内容は、合金鉄の輸送、海外からフレキシブルコンテナで入ってきた金属廃棄物を分類して輸送、さらに一般廃棄物の焼却灰の輸送などをしています。

安全管理事業所（Gマーク）は、安全性に対する法令順守の状況、事故や違反の状況、安全性に対する取り組みの積極性の3項目の評価が一定の点数以上で、その他の要件もクリアすると全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。認定を受けた事業所に所属するトラックには「G」マークのステッカーを貼ることができます。有効期限があつて、継続するには更新申請が必要です。



このうち合金鉄と金属廃棄物の輸送は地元の製鉄会社に関連した仕事です。また、一般廃棄物の焼却灰輸送は、茨城県内だけでなく神奈川、千葉、福島などからも大蓋（荷台の



天井を覆うふた）のついたダンプで地元の中間処理場に運んできます。この事業者が「Gマーク」の認定を取得したのは2010年12月です。以前から安全管理には力を入れてきました。ドライバーの健康管理でも、定期的な健康診断で結果の悪い人は産業医に個別診断などもお願いしていました。

安全管理面でも、出発前の点呼時にフリッcker疲労検査で疲労度の見える化などもしてきました。また、3つの事業部門は同じ運送でも仕事の内容が違います。そこで各部門の班長を中心月1回のミーティングをします。さらに月の最後の土曜日には全員が集まるミーティングを開き、各部門の班長が自分たちの班の安全への取り組みなどを報告します。このような取り組みも自己満足とマンネリ化を防がなければなりません。そこでドライバーの人たちに、これからは安全優先の時代が来るという意識づけとして「Gマーク」を取得したのです。





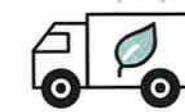
機能を持つ在庫型と、基本的には在庫を持たない通過型があります。通過型のセンターは各地から持ち込まれた荷物を仕分けして共同配達するクロスドック型とも呼ばれています。このように物流センターを核にして共同配達をしています。

また、土浦センターと九州営業所間では中ロット貨物の混載輸送をしています。宅配便や路線便などより大きな荷物で、トラック1台を貸切るまでのボリュームがない荷物を集め、積み合わせて関東と九州を幹線輸送して、それぞれの地域で配達する輸送サービスです。

このような物流サービスを提供している中で、2011年にグリーン経営の認証を取得しました。現在は小学校でもSDGs（持続可能な開発目標）について勉強します。17の目標の中にはクリーンエネルギーや気候変動対策などがありますが、これらはトラック運送事業とも深くかかわってきます。そこでこの事業者は石炭燃料を使って仕事をしているので省エネ運転などには力を入れて取り組んできました。そのような取り組みの中でグリーン経営の認証も取得したのです。



環境にやさしい
トラック運送業界



石化燃料を使って事業をしているので省エネ運転などに努力その一環として

グリーン経営の認証も取得

グリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）は、ISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づき、環境保全のために必要な項目や目標を設定し、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を交通エコロジー・モビリティ財團が認証する制度です。

坂 東市に本社のあるこの事業者は、茨城県内では上浦、つくばにセンターがあり、つくばセンターが実質的な本社機能を持っています。さらに埼玉県の春日部市と久喜市、佐賀県には九州営業所（みやき町）があり、東京事務所（千代田区）もあります。保有車両数は115台で、倉庫や物流センターの運営もしています。主な仕事はドラッグストアーストア、スーパー、ホームセンターなどの物流業務です。物流センターは在庫の保管



茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

「大きなトラックに乗りたくて」トラックドライバーに

北海道から九州まで行くこともあります。

ツイッターなどで近況発信

竹岡愛里菜(たけおか・えりな)さん



解体業で働いていた竹岡愛里菜さん。自分で中型免許を取り仕事で中型ダンプに乗るようになりました。しかし、「もともと運転は好きだったんで、もっと大きなトラックに乗りたくなった」といいます。そこでドライバーの仕事を探していましたが、いま働いている運送会社の募集に応募する決め手になったのは

「ユニック車のドライバー募集だつた」そうです。「ドライバーになつても現場に携わる仕事がしたかつたから」といいます。



牛久市出身の竹岡さんは、牛久から取手市の運送会社まで車で通っています。会社には21車から大型車までダンプ車、平ボディ車、ユニック車、ゲート車など35台があり、竹岡さんは6tユニック車に乗務して建設資材や電線などを運んでいます。

竹岡さんが入社したのは約1年半前です。ユニックの免許は入社してから会社で取らせてもらいました。この運送会社には36人のドライバーがいますが、そのうち女性は4人です。

建材を積む場所は牛久、取手、竜ヶ崎、上浦などです。また、走線は右岡から債

んでいます。建材も電線も工事現場に運びますが、建材、軽天材、電力機材、電線などを同じ現場に運ぶことがあるそうです。まず建材を運び、次に軽天材を運んで、その後には電力機材、電線といつたように現場の工事の進捗状況によって必要とされる資材が運ってくるからです。

また、電力機材などは北海道や九州に運ぶこともあります。九州への輸送では大阪の泉州港、北海道へは八戸港や青森港からフェリーに乗りります。このように「バラエティに富んでいるので仕事が楽しい」という竹岡さん。各地のご当地ラーメンを食べるのが好きで、ツイッターでSNSで情報発信もしています。



高校新卒で入社して工事関係の仕事からスタート

21歳で大型車とけん引免許を取つて現在は特殊な8t車に乗務

植田航平(うえた・こうへい)さん



できるだけ長く巻けるようにしていません。しかし現場が狭いので10t車では入れない、といった条件があるからです。

荷物は常磐線の小木津駅の近くから積み込みます。輸送先は中部以北の東日本や北海道です。植田さんは「各地に行くのは新鮮な気持ちですが、初めてのところに時間通りに到着しなければならないという緊張感もあります」といいます。将来は「トレーラに乗務したり、どんな仕事でも任せてもらえるようになりたい」と話しています。

ひたちなか市出身の植田航平さん。日立市にある運送会社に高校新卒で入社して7年になります。なぜ新卒で物流の仕事を選んだのでしょうか。

「バスやトラックなど大きな車に乗りたかったから」といいます。また、「父が物流関係の会社で働いているので、似たような仕事をしたかったから」でもあります。そして現在の会社で働いているので、親戚の人などからも会社の評価などを聞いて入社を決めたそうです。

会社には31台のトレーラやトラックがあります。しかし、植田さんが入社した時は普通免許しか持っていないませんでした。この会社には機械の設置などの工事部門がありますので、最初は工事関係の仕事から始めました。そして21歳になると会社が費用などを負担して大型

免許を取得し、同時にけん引免許も取りました。現在はフォークリフト、玉掛け、小型移動式クレーン、高所作業車などの資格も持っています。

植田さんが乗務しているのは特殊仕様の8t車です。大きさは4t車と同じですが、低床で荷物が7tも積めるようなトラックです。植田さんが運んでいるのは電線ドラムですが、電線をつなぐジョイントの数を少なくするために、

レインボーウェイ RAINBOW WAY 2023



発行日 2023年3月31日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 (順不同)

秋田運輸 株式会社

株式会社 梅里物流サービス

株式会社 川友

株式会社 ケーズキャリーサービス

佐々木興業 株式会社

常総支部青年部会

有限会社 平伸運輸

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign

Photo & Text by F.Morita

(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 茨城県トラック協会

〒310-0913 水戸市見川町2440-1

TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936

ホームページ <https://www.ibatokyo.or.jp>

<無断転載禁ズ>

会長からのメッセージ

くらしと経済を支えるトラック
運送は持続可能な業界を目指
して努力しています
若いみなさんも私たちと一緒に
日本の物流を支えませんか



一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 小倉 邦義

トラック運送は国内貨物輸送量の9割以上を運んでいる基幹産業です。食料品や飲料、日用雑貨やその他、みなさんの日常生活に必要なあらゆるものをお送りしています。また、企業の経済活動に必要な生産材など様々な物資の輸送を担っています。コロナ下にあっても、感染防止に万全の対策をとりながら、エッセンシャル・ワーカーとしての役割を果たしてきました。さらに最近頻発するようになった自然災害などに際しては、避難所に必需品などを緊急輸送します。そのため茨城県トラック協会では県や市町村と緊急物資輸送の協定を結んでいます。

しかし、私たちトラック運送業界は現在、大きな課題に直面しています。それは「2024年問題」と呼ばれています。

これまで国内の物流が円滑に行われていました。しかし、それはトラックドライバーの長時間労働などによって支えられていたのです。2024年4月からはドライバーの年間残業時間に上限が設けられます。すると現状でもドライバー不足ですが、ドライバー不足がいっそう深刻になります。最悪の場合には小売店の店頭で品切れになったり、ネット通販会社に注文した商品がなかなか届かなくなるといったことが常態化する可能性もあります。

私たちトラック運送業界は、そのような事態を招かないために努力しています。あわせて若いみなさんにトラック運送業界に入ってきていただき、一緒に力を合わせて持続可能な日本の物流を実現していくことを切に望んでいます。



社会との共生

トラック運送業界では「社会との共生」を目指した活動をしています。交通安全を訴えるPR活動、地域の清掃活動、小中学校への出前授業で物流の仕事を説明など、その取り組みは様々です。また、自治体などが主催するイベントなどにも積極的に参加しています。茨城県トラック協会には地域ごとに13の支部がありますが、これらの取り組みは支部ごとで行ったり、あるいは女性部会や青年部会などでも行っています。



つくば市が主催した

「LALAら交通安全&防災2022」に参加



常総支部の青年部会では昨年9月10日、11日につくば市が主催してLALAガーデンつくばで開いた「LALAら交通安全&防災2022」のイベントに参加しました。青年部会の参加は9月10日だけでしたが、青年部会のコーナーにはたくさんの人が集まりました。

常総支部青年部会はコロナ前には毎年、つくば市、下妻市、常総市、つくばみらい市、八千代町の小中学校3校で出前授業をしていました。



しかし、ここ2年間はコロナ感染防止のために中止していました。今年はつくば市からの話もあって、同市が主催するイベントに参加することにしました。乗用車などより内輪差が大きいことを青年部会はLALAガーデンの駐車場の一角にパワーゲート車を持ち込み、説明して巻き込み防止などの注意を促しました。また、運転席に実際に座つて死角が多いことを体験してもらいました。パワーゲートで荷台に乗り降りする体验では、順番待ちの親子連れが1000人ぐらい並ぶほどの盛況でした。

